

道路ユ-ー-スネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK



岡山県青年館にて。左より大阪の赤松さん、当時から担当の武市昌之さん、神戸の奈々ちゃん。



赤松さんから今治の渡邊さんにバトンタッチ。パリダカファンの赤松さんにも喜んでくれていたとか。



無事カフェに到着し、ほっと一安心。パリダカ子は久々の長距離に有頂天気味？



20年ぶりの再会に「イエ〜イ！」
三好礼子
エッセイスト・元国際ラリスト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

★三好礼子の★
ナチュラル・ロード

ラリーで砂漠を走っている夢をよく見ます。爽快に大砂丘をバイクで駆け抜けていると思えば、スタート時間なのに「マップホルダー」に地図が入らない！と焦りまくっていたり。目を覚ましてはクスクス笑ってしましますが、すべては昨年末のバリ・ダカラリーバイク(ホンダXR400R。愛称は「パリダカ子」)大移動の影響でしょう。一大イベントの発端は一年前。不覚にも雪掻きでぎっくり腰になり、山を走るトレランを大幅に自粛したのですが、なぜかバイクライディングはできたので走り回っていたら、「現存している唯一のパリダカバイク、いつかはカフェに飾りたい」という夢があつた。

ふつと再燃したのです。1997年の「第19回ダカラリー」。2回のパリ・ダカラリーを経てようやくの完走でしたが、レース後すぐに岡山県青年館の方からオファーがあり、バイクを買って載せたのでした。参加車両は、次のレースの資金にするため毎回売却しますが、大抵レースに使われるので、再会することはありません。今回は青年館のホールに展示されていたので、劣化もなく現存していたのです。「いつか買戻したいな」と思うものの、狭いカフェに展示スペースはありません。「広くなったら」「余裕ができたなら」と思っていたけれど、機が熟したのか、状況が不安



重い本棚や加工場の機械を移動し、みんなでバイクを配置中。



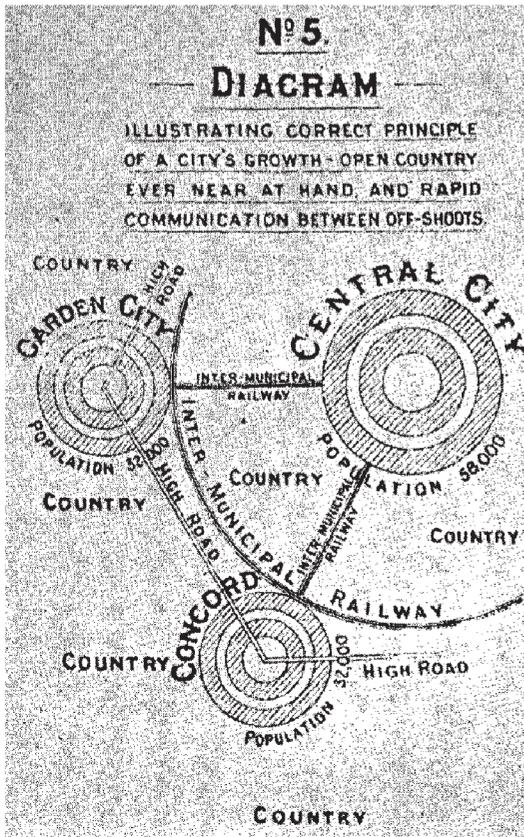
マシンを見ながらの忘年会は格別。春までには飾り付け完了かな。

況に変化はないけれど動き始めてしまいました。実は以前住んでいた朝霧のカフェは広かったので、マシン以外のラック(トローリー・ウェア・地図・ゼッケンプレート・GPSなど)を展示していたのですが、2000年のラリー以降は、農業に動じみ山を駆け抜ける「土のオンナ」時代。過去の遺物を飾ることに興味はありませんでした。ところが、昨年のバイク復活から少しずつ気が変わって、純粋に「この子を見て欲しいな」と思っている赤松氏が中間ピクアップ担当に。つまり、岡山からの800キロを、4人半の手で半月かけてリレーして来たのです。しかもバイクの背が高いので、トランプはクランプスではなく、敢えて軽トラック! 無事カフェに届いた大晦日は、到着を待っていたカフェのお客さま

や仲間たちで大騒ぎとなりました。そして、たまたま年越し忘年会に集まった22名がカフェの配置換えを手伝ってくれたおかげで、あつという間に展示スペースができて収まりました。人のパワーは偉大なり。セネガル・マリ・モリタニア・ニジェールの砂漠を16日間8千キロ走った砂色の「パリダカ子」、むちゃくちゃ嬉しそう。前後で37リッターの特製ガソリンタンク。命のマップホルダーやGPSケース。傷が残るファンター。腰まである高いシート。エマーゼンシーの3リッター水タンク。冒険してきたやんちゃなバイクは、ライダーであるなしに関わらず、何時間でも見ていたくなる魅力があるようです。転倒や砂埃をものともせず、ゴールまで私を運んでくれた大親友は、けつして過去の遺物ではなく、リアルパワーの塊でした。見た方が「すっごく勇気もった」と言ってくたさるのですが、一番勇気をもらっているのは私なのかもしれません。あの記憶を辿りながら、いかに関係者や仲間力を貰い、みんなでゴールしたかと思いついたのですから。以前「60歳でパリダカ出たい」と言っていたのですが、気がついたら60歳でパリダカにどっぷり浸っていました。

都市計画の中の道路① 社会長善の理想都市における道路(M&E)

東洋大学国際学部・准教授 志摩憲寿
社会改良主義者たちによる理想都市の中で、後世の都市計画思想に最も大きな影響を与えたものの一つはエベネザー・ハワードによる「田園都市」でしょう。ハワードは、その著書「明日・真の改革にいたる平和な道」(1898年)の中で、「過密都市」の問題に対処するため、「都市と農村の結婚」を目指した田園都市、すなわち、都市生活を生氣を与えつつ、農村生活を社会的に改善するため、都市の物理的な成長とコミュニティを再編させるという都市開発のあり方を構想します。具体的には、①(都市に欠くべからぬ要素として)農地の保

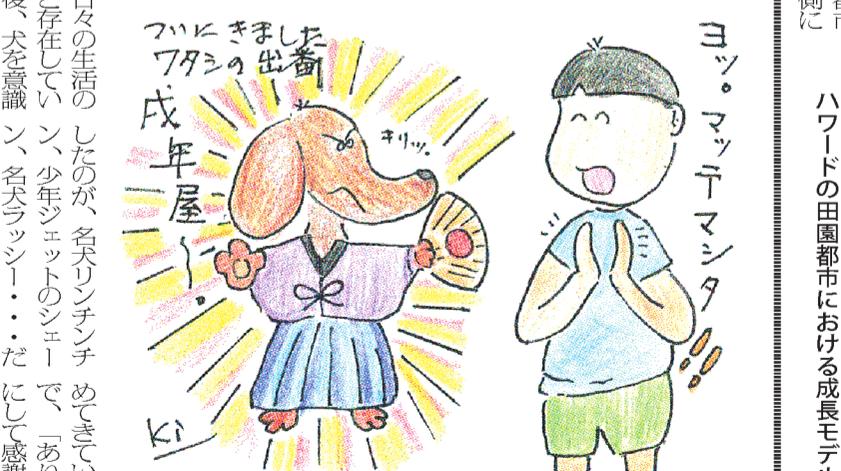


田園都市を建設するというもので、かつ、田園都市の人口が32000人を超えれば、農村を隔てた向こうに新たな田園都市を建設し、中心都市と田園都市とをいっしょに成長する構成しながら成長することを考えています。ここでは、中心都市と田園都市の間や田園都市同士は鉄道と道路で結ばれていますが、ハワードは、鉄道を利用すれば、道路よりむしろ鉄道が重視されていたようです。それは、都市の内部において道路はどのように捉えられていたのでしょうか。次回に探ってみたいと思います。
参考文献：E・ハワード(1968)「明日の田園都市」鹿島出版会、日瑞雄(2008)「都市計画の世界史」講談社現代新書

ハワードの田園都市における成長モデル(出典：ハワード(1968))

ハット
思いました
2018年、あけましておめでとございませう。皆さんそれぞれの新年の幕開けを迎えられたことと思います。
今年も戊辰。戊辰はどんな年かなと調べてみますと、忠実、親しみ深い、勤勉、努力、安産などのフレーズが出てきました。また戌年の守り本尊は阿弥陀如来。阿弥陀如来は一切の衆生を救うため四十八の誓いを立てた慈悲深い仏様です。
こうしてみると、割と穏やかな時を過ごせそうかな

とも思えます
す。とほやえ、本人の何の努力もなく満たされるわけではありませぬので、日々の精進が大切と云うことですね。
犬との出会いは思い起こせば、最初は子供頃、近所をうろつく野良犬でした。何か被害にあうと言ったこともなく、日々の生活の中にちらちらと存在している、少年少女のシエラで、「ありがと」を言葉と感謝しながら過す



「感謝」です。家にいる時間から、生身の血の通って、外出先でも、自分ひとりの力なんて、たかが知れたもの。何かしらの助けを借りて、振り回されたくなかった。だから、そのしるしとして「有難う」を忘れないようにしたいと思っています。
この気持ちがあれば、理不尽な交通事故も無くなると思うのですが...